

全ゆるスト破壊策動粉碎し。

ストからのスト貫徹へ!

日刊 動労千葉

81.2.26

No.670

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五・六(公衆)四三三二七・三〇七

助役株園士によるスト破りを断じて許さないぞ!

1月19日より一週向ぶっ続けの「助役株園士線見訓練」実力阻止闘争の激戦の真只中、2月23日に開催された動労千葉五回臨時大会は、敵・味方、全国の注目の中、まさに一点の曇りもなく動労千葉千三百の「3・2以降ジェット決戦スト貫徹」の向う決意と方針を満場一致で示し、圧倒的成功をかちとった。3月ストを絶対にやらせるな。三月以前に動労千葉の戦意と組織体制を力づくの恫喝で叩きつぶせ。ストなんかとても無理だと思いつく。『と』という目論見で必死の弾圧工又カレートにかけてきた国鉄当局の企みと計算は、ゆが動労千葉には通用しなかつたばかりか、逆に千三百組合員の怒りと闘志を心底からかき立てたのみであった。線見阻止闘争にゆれゆれは完全に勝利した。

「スト破り」強行を宣言した当局

とりわけ大量の公安株動隊の混戦でゆが現場をかみにじったばかりか、2月21日乗務中の日暮、大須賀両株園士を運転席に乱入し暴行を加えて引ずり降すという常軌を逸した成田駅での弾圧に示された当局・権力の姿勢は、万人の怒りをかき立てたのみならず、はっきりと三月ストに対する敵の弾圧姿勢を先取り的にさらけ出した。

2月21日成田でのこの英雄的闘いを頂点として、一週向連続して闘いぬいた成田・佐倉の当該乗務員のき然たる闘い、全支部あげての早朝連続動員——この激戦を通してゆが動労千葉は今やしっかりと本腰をすえた三月決戦スト体制をうち固めることができた。ハンドルの握って闘いぬく、この不屈の株園士魂ある限り、動労千葉は不敗である。

三月スト勝利の展望を荒々しく引き抜いた線見阻止闘争の勝利

二月線見阻止闘争は、いゆゆる、労働使協調、型の既成の労働運動のワクの中で永らく眠り込まれてきていた労働者の階級的魂を感動をもってよび覚し、労働者の実力を確信高く自覚させ

まさに激戦の80年代に通用する労働運動の根幹をさし示した。この闘いの精神こそが、ゆが「三月ジェット決戦スト貫徹」勝利の基本骨格である。

あれだけの弾圧部隊を投入しながらも、ますます展望を失っていき、「三月スト」の威力の前に恐怖しあせっているのは、当局の方である。

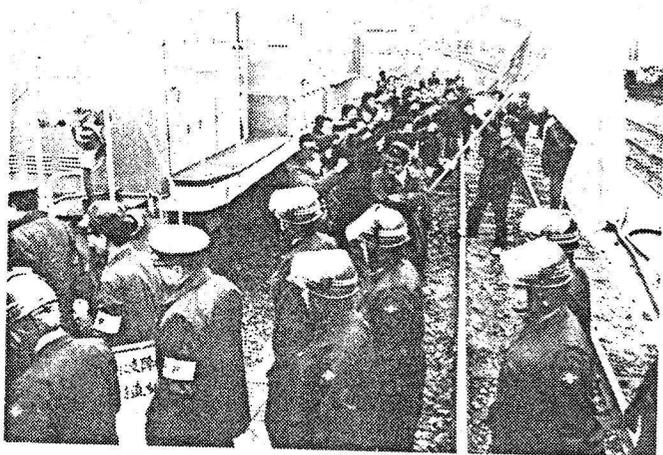
公安株動隊の現場じゅうりんに怒りをもち、永続的闘いを展開

「三月スト突入方針」の圧倒的確立をかちとった五回臨時大会の勝利と呼応して、2月23、24、25日も、成田・佐倉の両拠点での激戦ががちとられ、当局・権力・本邦反動分子の一体となつた「スト破り連合」は大きく追いつめられていった。

成田

大量の公安株動隊があらわし、ミニ戒厳令、とひんしゅくを買おうほどうろたえた警備の中で、当該株園士が堂々と闘いぬいた。助役株園士・系東拒否を通告する乗務員に当局は何一つまともに答えることもできず、「組合の言う事に答えるな」という局長命令が出ていたので、「とみじめな逃げに

(ウラハ〜)



大量の公安機動隊の投入にも全く屈せず、衰気高く闘いは続く。(2月25日(総見訓練第6日目)佐倉柵園区)

終始。21日の運転席乱入事件への取場の怒りはすくなく、三月スト貫徹で必ず応えてやる」との合言葉で全員が不屈の闘いを続けてくる。三三戒厳令にもかかわりえず24日も訓練用列車一本が運休に追い込まれ当局は顔色なし。

佐倉

成田同様大量の公安機動隊が現場にはりついているが、動労千葉柵園士の「点呼闘争」の前に当局は終始逃げまわり、唯一「本部」の裏切りへのみ炎い救いを求めている。しかる現場の糾弾の前には、本部派組合員はますます動機・消耗を深めている。25日には、ヘルメット・複の青年部先頭に15名の糾弾デモが柵園車、公安機動隊を包囲するや大あわてで、増援部隊をよび寄せるなど、ますますスト貫徹への意気上がる動労千葉組合員と対峙的に現場当局は頭をかかえている。

減産闘争

23日より一段と強化(乗務員A↓B、地上B↓C)に減産闘争は、大きな影響を出し方から当局を迫いつめた。

2月23日—運休8本、総遅延分數2446分
24日—16本、23/9分

三月ストに引つがれる序曲として当局を迫いつめてくる。

いざ三月へ!

万全の全線スト体制構築を

全ての組合員の皆さん、二月線見阻止闘争は大きな勝利をきりみらした。しかし同時に、何の展望ももちあゆめない当局は、27名の助役柵園士を投入してスト破り列車を走らせようという無謀に必ずやうたえる、という事も今やはっきりとした。われわれは、敵のこの無謀な挑戦に対し、すた臨時大会が決定確認した通り、断固たる旅客を含む戦術拡大をもつて、これをうちくぐくのみである。

高校・大学の入試期を省みず事もなく、当局があえて「スト破り」に挑戦するというのなら、われわれは敢然とこれにたえて闘いを貫く。そもそも「閣議決定反舌↓延長おしつけ」の不当性、労使慣行の一方的じゅうりん、安全性無視・農民・住民敵対の輸送強行、しかも「特別」すらなくすっぽおまこにない他局かき集め、助役柵園士が、スト破りという断じて許せぬ行爲でハンドルを握るという事など絶対に許す訳にはいかない。われわれの正義性・正当性には、全く一点の曇りもありえない。

当局と本部反動分子の結託によるスト破り行爲の結果、いかなる事態、いかなる社会的影響が引おこされようとも、それはわれわれの責任ではなく、百パーセント当局の責任であることははっきりしている。

当局とそれに協力加担する本部反動分子、および202億円のパートナーに労働者の魂を売り渡すかごとき腐敗した既成運動幹部——これら密集した反動「三月スト破り連合」に租する者こそが、一切の社会的責任を負わねばならないことを、われわれは今から、はっきりと宣言しておくものである。

全ての組合員の皆さん、

3月2日以降、いついかなる時、状況にもかかわらず、断乎たる全線区対象のストをうちぬく体制を構築・強化しよう。動労千葉の真価をかけ、決戦を全支部・全組合員の力でうちぬく決戦のときがきたのである。全支部でのスト体制を万全に構築せよ。